

スペシャルインタビュー!

主演 中川大志

ずっと図書館での撮影だったのですが、深夜の照明が落ちて誰もいない図書館という空間ってすごく新鮮じゃないですか。そこに響き渡る声とか足音とか。お客さんがだんだんと図書館の中に自分もいるような、没入感というか、お客さんも図書館に忍び込んでいるような、そういうドキドキ感を映画の中で味わってみたいです。

大崎市の皆さんへ一言!

図書館という空間をフルに使ってカッコいい映画ができたと思います。皆さんがいつも見慣れた地元の図書館が、映画の中ですごくカッコよく映し出されていますので、そこも楽しんで観ていただけたら、僕たちもうれしいです。

監督・脚本・原作 飯塚健



大崎市図書館で撮影させていただきました。素晴らしい空間です。オランダのアムステルダム中央図書館が好きなのですが、負けてないです。近所にあつたら、必ず常連になり、あの二階で「FUNNY BUNNY」の続編を執筆すると思います。

ロケ地の選定は、もちろんこだわりはありません。その空間に足を運んだとき、脚本に書いた人物たちが脳裏で躍動するかどうか、が決め手になることが多いです。

今回の映画「FUNNY BUNNY」大崎市図書館ロケでは、図書館という空間の一部に、高校の教室での過去＝心理描写を存在させたシーンにこだわりました。あとやはり、剣持と漆原の魂の衝突シーンですね。

大崎市の皆さんへ一言!

ウイルスによって一変してしまった日常。人は弱いです。引っ張られます、闇へ。どうかそんなときこそ、この映画を観てほしいです。必ず、希望はあります。撮影では、お世話になりました。

大崎市図書館が襲撃される!?

ファニー バニー

映画「FUNNY BUNNY」

4月29日から公開! シネマ・リオネ古川は5月7日から公開!



© 2021 「FUNNY BUNNY」製作委員会



飯塚健 監督・脚本・原作 × 中川大志 主演の新作映画「FUNNY BUNNY」。今年1月、市内で撮影された先がまったく読めない新感覚の痛快シニカルミステリーがついに、公開されます!



© 2021 「FUNNY BUNNY」製作委員会

Story

とある図書館に「強盗」しに現れた2人の愛くるしい「うさぎ」。目的は「絶対に借りられない本」を見つけること!? だが、あつという間に形成は逆転し、捕らえられてしまう。観念した「剣持」と「漆原」から事の真意が明かされる。「絶対に借りられない本の中に、宝の地図が隠されている」。そこに秘められた驚愕の真実とは!? 月日は流れ、図書館で出会った5人は、またしてもとんでもないミッションをするハメに。それは「ラジオ局を「襲撃」し「電波」を盗むこと」。剣持から語られたのは、まったく売れなかったバンドと幻の名曲に秘められた哀しい真実。果たして無事にクリアできるのか? DJブースのマイクの前に立つバンドによる、最後の曲が流れ始める。

「FUNNY BUNNY展」開催!

飯塚監督、中川大志さんの実筆サイン・インタビュー、撮影の裏話など特別公開!

◇期間: 4月20日(火)~5月30日(日)

◇時間: 平日 9時30分~19時

土曜・日曜日、祝日 9時30分~17時

◇場所: 大崎市図書館内

※5月6日、10日、17日、20日、24日は休館です。

主演 中川大志 岡山天音 関めぐみ 森田想 レイニ ゆうたろう 田中俊介 佐野弘樹 山中聡 落合モトキ 角田晃広 菅原大吉

監督・脚本・編集: 飯塚健

製作総指揮: 森田圭 エグゼクティブプロデューサー: 多田一 大野高宏 プロデューサー: 金山 宇田川摩 吉田憲一 共同プロデューサー: 田口雄介 音楽: 海田庄吾 撮影: 小松高志

2021年/日本/103分/カラー/ビスタ/5.1ch/
<https://funnybunny-movie.jp>

原作: 舞台「FUNNY BUNNY - 鳥獣と寂寞の空-」(演出・脚本 飯塚健/青山円形劇場、2012)、小説「FUNNY BUNNY」(飯塚健/朝日新聞出版) 製作: KDDI 制作プロダクション: ダブ 配給: 「FUNNY BUNNY」製作委員会 (C) 2021 「FUNNY BUNNY」製作委員会

大崎市図書館、大崎中央高等学校にて撮影が行われた映画「FUNNY BUNNY」が4月29日(木・祝)に映画館&auスマートパスプレミアム同時ロードショーされます。

本作品は、『ステップ』(2020)、『虹色デイズ』(2018)、『荒川アンダー ザ ブリッジ』(2011)の映画のほか、ドラマ、舞台、PVなどさまざまな分野で才能を発揮する映像作家 飯塚健氏による新感覚の痛快ミステリー。

「FUNNY BUNNY」は2012年に上演され大いに反響を呼んだ、飯塚監督のオリジナル戯曲を映画化した作品です。

大崎市図書館の映像は、作品中やメインビジュアル、特報にも数多く登場! 大崎市公式キャラクター「パタ崎さん」も、画面に映り込んでいるかも・・・!

◆大崎市図書館の閉館後に行われた映画ロケ

市内での撮影は、今年1月、大寒波による雪が降りしきる中、総勢50人規模、7日間にわたって行われました。作品の舞台は、閉館間際の図書館。実際に、大崎市図書館の閉館後から深夜、明け方にかけての撮影となりました。図書館では、本作品の重要なシーンとなるウサギの着

ぐるみによる「図書館強盗」を撮影。「世界を救うのはいつだって、想像力だ」と印象的なセリフを豪語する主人公 剣持聡役の中川大志さん、親友 漆原聡 役を演じた岡山天音さん、関めぐみさん、レイニさんらが撮影に訪れました。

ロケ地の選定は、全国無数にある図書館の中から、大崎市図書館の明るい吹き抜けや、木材の温かみが感じられる空間、27万点を所蔵する規模などを、飯塚健監督はじめ、映画制作スタッフから評価され実現。映画やドラマなど、過去に大崎市図書館で撮影は行われたことはなく、本作品が全国初お披露目の作品となりました。

◆市内の高校生がエキストラ参加

大崎中央高等学校では、実際に普段から使用されている教室で撮影が行われました。照明を配置するため校庭に足場を組み、主人公 剣持聡(中川大志)が事件を起こすきっかけとなった過去を振り返るシーンを撮影。高校のクラスメイト役として、在校生30名らがエキストラとして参加しました。画面中に映る生徒たちの演技にも、注目してみてください!